

### 【島根県の紹介】

島根県は中国地方の北部にあり、県土は東西に細く伸び、東西の距離は約 230km に及びます。また、島根半島の北方 40～80km の海上には、「天皇の島流し」で知られる隠岐諸島があります。水の都・松江市を県庁所在地とし、美しい海岸線や中国山地の雄大な自然に囲まれています。また県内には歴史的遺産も豊富で、来訪者には魅力の多い県です。

当院が設置されています島根県出雲市は、島根県の東部、宍道湖の西側に位置し、北部は『出雲国風土記』の国引き神話で知られる島根半島、中央部は出雲平野、南部は中国山地に囲まれた人口約 17 万人の県内第二の市です。



島根県の紹介

### 【島根大学医学部附属病院 施設概要】

当院は 1979 年に設置され、2019 年 10 月に開院 40 周年を迎えました。病床数は現在 600 床（一般病棟 570 床、精神病棟 30 床）で、33 の診療科、4 つの中央診療施設、21 の特殊診療施設および 17 の診療支援施設が診療にあたっています。また 350 名を越える医師、約 700 名の看護師、その他職員総勢 1400 名を超える病院スタッフが各科・各部署に配属され医療に取り組んでいます。

当院の理念は「地域医療と先進医療が調和する大学病院」であり、下記の基本方針を掲げています。

- ・ 患者さんの視点に立った医療の提供
- ・ 安全・安心で満足度の高い医療の実践
- ・ 人間性豊かで優れた医療人の育成と派遣
- ・ 地域とのネットワークを重視した医療の展開
- ・ 地域社会に還元できる臨床研究の推進



島根大学医学部附属病院 外観

### 【放射線部 概要】

附属病院放射線部には 41 名の診療放射線技師が在籍しています(2020 年 4 月現在)。また、医学

部放射線医学講座にも、診療放射線技師が 1 名在籍し研究活動を行っています。放射線部は、診療放射線技師長を中心に 2 名の副診療放射線技師長および 8 名の主任診療放射線技師で組織の体制構築や人材育成を行っています。勤務は毎朝の朝礼から始まり、各部門からの連絡・報告事項を部内全員に周知します。毎週火曜日は、勉強会の場を設け、各自の研究成果や論文抄読等により、部内のモチベーション向上に繋がっています。本勉強会は、偉大な諸先輩方が築き上げてきた素晴らしい伝統の一つであり、我々後輩もしっかりと受け継いでいます。

### 【高度外傷センター】

島根県の外傷拠点を目指し、高度外傷センターが稼働しています。大学病院の視点で重症外傷の診療体制を構築すべく、2017 年に国立大学では初めてハイブリッド ER を導入しました。ハイブリッド ER は、初療室、CT 室、血管造影室、手術室の 4 つの機能が一つのユニットに集約されており、重症患者の治療を一つのユニットで全て完結することができるため、移動による時間のロスを回避することができます。

外傷診療における診療放射線技師の役割は、迅速な画像検査は勿論のこと、他職種とも連携を密にとり、円滑な救命処置が施されるようにノンテクニカルスキルも要求されます。



ハイブリッド ER の装置外観



ブリーフィング(患者搬送前の情報共有)

### 【社会・地域貢献】

当院には 2011 年に Ai(死亡時画像診断 : Autopsy imaging)センターが設置され、Ai 専用の CT(16 列 MDCT)装置を 24 時間体制で運用しています。Ai により法医学的な死因究明の精度向上、効率化を図るとともに、当院内死亡例の死因究明の透明性確保と患者さんへの情報公開ならびに臨床研究の支援を推進することを目的とし、開設されました。また、他の医療施設から撮影依頼のあったご遺体、司法機関から依頼された法医検査および解剖実習にご献体されたご遺体も撮影対象としています。

法医検査の Ai については、明らかな病死以外の異常死体数が増加傾向にありますので、法医解剖の負担軽減等、AiCT の必要性は高くなると予測されます。また、解剖実習では、医学生はご献体の CT 画像を参照しながら、人体の三次元的理解を深めることができますので、臨床において画像診断能力向上に繋がることが期待されます。



AiCT の撮像風景

我々、診療放射線技師も精度の高い死因究明および死因不明社会の一掃を目指し、先進的な社会地域貢献を行っています。

### 【新人教育・人材育成】

将来的には、多様性(マルチモダリティ)に対応できる診療放射線技師の育成を目指しています。また、当部では効率的な業務運営を目指し、人員配置について3グループ(「一般撮影・血管撮影」、「CT・外傷センター」、「MRI・放射線治療・核医学検査」)に区分けし、定期的にローテーションを行います。また、休日・夜間時間外勤務は2人体制、2交替のシフト制をとっています。新人放射線技師が、知識・技術を習得し、日当直業務に入るまでに1年間をその習得期間とし、各部署の主任技師を中心とした先輩技師により新人教育は取り組まれています。

### 【学術活動・次世代リーダーの育成】

大学病院は“診療”“教育”“研究”を使命としています。診療を通じて教育や研究を行う中で、次世代を担う医療人の育成や次世代リーダーの育成も重要な役割の一つです。研究活動や学会発表に向けては、部内に学術部を設けて研究活動のサポートをし、国内学会だけでなく国際学会での発表も積極的に推進しています。

また、働きながら大学院進学も可能です。他大学への大学院進学は勿論のこと、島根大学大学院医学系研究科では毎年、修士課程や博士課程の学生を募集しています。これまでに当部からも多くの学位取得者(修士・博士)が誕生していますので、学業面でもしっかりサポートいたします。



### 【新放射線治療棟オープン】

島根大学医学部附属病院の敷地内に新たに放射線治療新棟を建設し、最新の放射線治療装置2台が2023年4月に稼働予定です。今後も、地域がん診療連携拠点病院としてIMRTや定位放射線治療などの高精度放射線治療を提供し、地域医療に貢献いたします。また、放射線治療に係る各種認定資格(医学物理士や専門技師)も取得可能ですので、資格取得を目指して一緒に働いてみませんか。

